

純粋・応用数学研究センター
Research Center for Pure and Applied Mathematics
令和2年度 活動報告書

令和2年度センター長 瀬野 裕美

1 センターの構成と運営

構成員

瀬野 裕美（教授，令和元年度センター長）
尾畑 伸明・宗政 昭弘・須川 敏幸・坂口 茂・原田 昌晃・村上 斉（教授）
島倉 裕樹・田中 太初・福泉 麗佳・船野 敬（准教授）
高橋 淳也（助教）
入江 佑樹（助教，数理科学連携研究センター）
大野 林太郎（東北大学総長・プロボスト室講師）
Jon Xu（日本学術振興会外国人特別研究員）

以上 15 名

運営委員会

情報科学研究科センター及びユニット内規（第5条）に基づいて以下の委員で運営委員会を設置している。

瀬野 裕美（教授，令和2年度センター長）
尾畑 伸明・宗政 昭弘・坂口 茂・原田 昌晃・須川 敏幸・村上 斉（教授）
島倉 裕樹・田中 太初・福泉 麗佳・船野 敬（准教授）
高橋 淳也（助教）

令和2年度は11回の運営委員会（メール審議を含む）を開催した（4/9, 5/14, 6/11, 7/16, 8/27, 10/15, 11/12, 12/10, 1/14, 2/1, 3/3）。

2 活動実績

2.1 情報数理談話会

1. Emmanuel J. Dansu 氏 (東北大学大学院情報科学研究科) 2020 年 7 月 13 日 (オンライン), 「Population dynamics modeling for the effect of collective behavior on information spread」

2.2 組合せ論セミナー

第 99 回 入江 佑樹 (東北大学) 「Steiner system の組合せゲーム分布」, 2020 年 6 月 19 日 16:00~17:00 (オンライン)

3 総括

令和元年度末から拡大・深刻化した新型コロナウイルスによる COVID-19 の問題は、令和 2 年度を通じて多くの学術活動を阻害することとなった。とりわけ、学術交流を担う人的交流についての障害は顕著であり、国際的な人的交流はもちろんのこと、国内における人的交流も重大な困難に見舞われた。そのため、本センターの活動の核を成す構成員の研究・学術活動が多大な影響を受け、例年、定期不定期に実施されていた「情報数理談話会」「組合せ論セミナー」「青葉山勉強会」「東北複素解析セミナー」「幾何と解析セミナー」のほとんどの実施、および、研究集会の組織が不可能であった。また、同じ理由により、例年であれば、不断に迎えていた海外からの研究訪問者についても、今年度については皆無である。なお、昨年度から引き続き、「数学相談室」は本センターの活動として継続しており、今年度、相談事項もわずかではあるが対応した実績があり、本センターの実際的な活動として有意義であることが示された。

今年度後半には、オンラインによる交流のツールやその活用法の普及が進み、国内のオンライン研究集会も開かれるようになってきた。しかし、海外研究者とのオンラインによる学術交流については、時差の問題もあり、難しいといわざるを得ない。今後、上記に挙げた、今年度の実施が不能となった本研究センターの諸活動についても、いつ明けるともわからぬ COVID-19 による社会状況を鑑みれば、今後、オンライン開催も視野に入れた、柔軟な実施形態を検討していく必要性は明らかである。もちろん、純粋数学・応用数学の研究拠点としての有り様、有意義な活動内容についても、これまでの実績に則り、さらに充実させるべく、検討を進めていきながら、学内外へのプレゼンスを高められるように努めていく。